

2011年11月

## 女偏の漢字

女偏の漢字を見てみると姓、好、婦、嫁、奴、如、妃、妓、妊、妨、妙、妖、姐、姑、始、姉、妹、姆、姻、姪、姨、娛、娠、姫、媿、娘、婚、娼、婉、媛、嬖、嬉、嫵、孀、嬾、…数え切れないほどあります。

およそ900字ほどあるといわれています。それでは「男偏」の漢字はというと、「鬪る」(なぶる)くらいしかありません。「男」が付く漢字でも「甥」「舅」、それに「虜」くらいでしょうか。

なぜなのか。漢字は、「女好き」なのか。調べてみました。大修館書店漢字文化資料館によると『そもそも、漢和辞典には「女」という部首はあっても「男」という部首はない。古代中国の男尊女卑の考え方が背景にあるといわれている。古代中国では、単に人間といえば男性のことであって、特別な漢字を作る必要がなかったのかもしれない。そして、女性は特別な人間であったがために、女性に関するさまざまなことを表すために、特別な漢字が数多く作られたのかもしれない』…とある。

さらにいろいろ調べていくうち、漢字の「漢」の字が、男をあらわしているのがわかった。「漢」の字の意味はいろいろあるが、その一つに「男子おとこ」とある(広辞苑)。そして、巨漢、悪漢、正義漢、門外漢、無頼漢、冷血漢、熱血漢……男のことをあらわしていることばがたくさんある。

漢字の「漢」の字が男をあらわしているので、漢字＝男の字ということで、「男」が付く漢字は必要なかったのかも知れません。

それにしても、女が「生」まれて「姓」、女の「子」が「好」、女が「古」くなると「姑」、女が「老」いると「姥」、女の「良」いのが「娘」女が「鼻」につくようになると「嬢(かかあ)」……漢字はおもしろい。